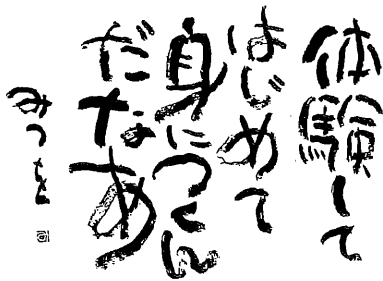


さくら第539号

令和 6年11月

さくら

発行所 さくらそろばん
 発行者 平瀬重雄
 春江町境 17-7・Tel.51-1337
 hirase@mx2.fctv.ne.jp



『何気ない言葉の奥にある歴史』

室町時代末期に中国より伝来したそろばんは江戸時代に広まった寺子屋で庶民の習い事として発展しました。

当時のそろばんでの計算方法を多くの実際の社会生活での例題を掲載したそろばん指南書ともいべき「塵劫記・じんこうき」を京都の吉田光由(よしだみつよし)が1627年(寛永4年)に著し、大ベストセラーになりました。

以後、明治維新で西洋の計算方法が取り入れられて来ましたがやはり読み書きそろばんという伝統は日本人の心と生活の中にどっしりと根をはっており、そろばんに関する多くのことわざや語句が今もなお残っています。

ところで、「四六時中(しろくじちゅう)」という言葉を見聞きしたことがあるでしょう。24時間、いつもしよっちゅうなどという意味ですね。

これは、 $4 \times 6 = 24$ というかけざん九九からきています。そして時中とは、時に中(あたる)、その時にピッタリという意味合いです。

さて、1873年明治6年1月1日から太陽暦が取り入れられると同時に西洋式の時法が導入され軍隊内では午前、午後のまちがいを防ぐため24時間制度が使用されます。

そして1942年、昭和17年10月11日に鉄道の時刻表に24時間制度が移入されたことから四六時中すなわち24時間という概念が生まれました。

さて、時代をさかのぼること江戸時代、時刻のあらわしかたは、日の出と日没をさかいに昼夜をそれぞれ6つに分け12刻で1日をあらわし、それらに12干支を当て、子の刻、牛の刻、

寅の刻とよびます。

1日を12刻としていたため2時間ごとの1刻はさらに30分ずつに分けられました。

だから1日を $2 \times 6 = 12$ ということから「二六時中(にろくじちゅう)」と呼んでいました。かけざん九九が庶民にも広まったことから、15歳を三五の歳、16歳を二八の歳と呼んでいます。

ところで、「にっちもさっちもいかない」という言葉があります。意味は進退極まりどうにも動きのとれない状況にあることを指します。漢字では二進も三進もいかないと書きます。

今はわり算をする時にもかけざん九九を使って計算しますが、その昔、室町時代にそろばんの伝来とともに伝わったのがわり算のための「わり声」というわりざん九九でした。

$12 \div 2$ ならば、12の左側に2を置き、2と1を見て二一十作五(にいちてんさくのご)というわり算九九を使います。5玉を天と呼ぶので1の上の天に5を入れて下の1を払って5にします。

次は、2と左側の2をみて、 $2 \div 2 = 1$ だから2進の一十(にしんのいんじゅう)というわり声を使い、2をはらって5の下に1を足します。中国語で「進」を「チン」と発音します。

$10 \div 3$ の時には、左側の3と右側の1をみて、三一三十一(さんいちさんじゅういち)というわり算九九を使い、1を3に直してその右に1を入れます。答えは3とあまりが1になります。つまり、答えと余りが即座に分かるのがわり算九九で便利ですが、覚えるのが大変です。

「二進」は $2 \div 2$ 、「三進」は $3 \div 3$ を意味し、答えがすぐに分かりますが、割り切れないことを物事がいきづまり、身動きが取れず、どうにもならない状態のことを、「二進(にっち)も三進(さっち)もいかない」というようになりました。

しかし、このわり声を覚えるのが大変なことから、昭和13年に廃止され、かけ算九九を使って割り算が指導されました。当時の文部省の図書監修官の塩野直道(しおのなおみち)が、小学4年用の教科書で珠算を採用し、「四つ珠」と明記し、「五つ珠そろばん」に代わり、「四つ珠そろばん」が広まり、今に続いています。

長き夜や
 かはりかはりに
 虫の声
 季語||長き夜
 加賀千代女
 秋の長い夜だなー。
 かわりがわりに虫の声が聞こえてくる。